上越ワーキングネットワークと厚生常任委員会の意見交換会（記録）

日時：令和５年２月７日（火）午後２時30分～午後４時
場所：市役所木田第一庁舎　第２委員会室

○　出席者

［上越ワーキングネットワーク］
吉田健一代表
横山将典副代表
葉吹洋也副代表
清水隆吉共同受注部会部会長
千葉拓未共同販売部会副部会長
八木絢子農業部会副部会長
渡部和平農業部会委員
岡田洋祐広報部会副部会長
事務局　佐藤貴規氏
事務局　保坂静香氏

［上越市議会］
石田裕一議長
［厚生常任委員会］
杉田勝典委員長
ストラットン恵美子副委員長
小山ようこ委員
鈴木めぐみ委員
中土井かおる委員
平良木哲也委員
大島洋一委員
［広報広聴委員会］
司会：山田忠晴委員
記録：宮川大樹委員

１　開会の挨拶

上越市議会　議長　石田　裕一

２　テーマ説明・参加議員紹介

厚生常任委員会　副委員長　ストラットン　恵美子
「上越市内の障害者自立支援を目指す17事業所が連携し活動を進める『上越ワーキングネットワーク』の現状とこれからの課題等について」

３　上越ワーキングネットワーク各役員の挨拶

４　意見交換会

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　上越ワーキングネットワークは、市内の17事業所が加盟する任意団体で、平成22年に発足し、今年で13年目を迎える。

・　活動目的は、上越市内で障害者の自立を支援する事業所等が連携し、業務の開拓と効率化を進めることで工賃向上を目指す。また、各々のノウハウや情報を交換することにより、人と人がお互いにいかし合う地域社会づくりに資する仕事をすること、人材を生み育てることを目的としている。
・　17 事業所のうち、雇用契約をせず利用者が作業をして工賃をもらうという就労継続支援 B 型の事業所が主となる。その他に就労継続支援 A 型の事業所や生活介護事業所でオリジナル製品を作っている事業所も参加している。
・　活動としては、月に 1 回定例会議を開催し、情報交換をしている。
・　発足以来事務局を担っていた社会福祉協議会が今年度でやめることとなり、加盟事業所の中から事務局を担う事業所を決める必要が出たため、今年度 1 年かけて協議してきた。どの事業所も限られた予算、ギリギリの人数配置の中で、日々利用者の支援に尽力しているため、事務局まで担うのは難しいというのが全事業所の意見だった。協議の結果、新たに人を雇用するという方針で動いているが、人件費をどう確保するのかが現在の最重要課題となっている。
・　上越ワーキングネットワークのような事業所間の情報共有ができる場所の存続が必要との意見が全事業所からあり、上越ワーキングネットワークの来年度以降の存続、その先の合併を見据えていくことが大きな課題である。課題解決の手段として、会費の増額やオリジナル製品販売の事務手数料の上乗せ、独自のオリジナル製品を作ることを考えている。
・　福祉関係者以外の認知度が低い。
・　新型コロナウイルス感染症の影響によって受注件数が減少している。
・　各事業所の販売会が激減している。
・　利用者の高齢化によって農福連携の施設外作業の受注が難しく、利用者と作業のマッチングが課題となっている。
・　今年度は 3 年ぶりに各事業所の見学会を行った。上越ワーキングネットワークは、数年に 1 度委員が変わるので、実際に見学して作業の様子や利用者像をイメージすることで、今後の作業受注の参考にすることを目的としている。また、昨年度は定例会議の中で製品の品評会を開催し、商品の見せ方の勉強会・意見交換会を行った。
・　福祉の店パレット春日山荘店が令和 3 年 3 月で閉店してしまい、市内に常駐で福祉の製品を販売するお店が無くなってしまった。現在、各事業所に直接足を運ばないと製品が買えない状態になってしまっているので、製品の販路拡大が大きな課題となっている。

［上越ワーキングネットワーク　清水隆吉共同受注部会部会長］

・　共同受注部会は、一般企業や自治体からの作業依頼に対して、相手方の担当者と作業内容や単価、納期などの調整を行った上で、上越ワーキングネットワーク加盟施設に周知し、受注する事業所を決定している。

・　新型コロナウイルス感染症の影響による職員や利用者の長期欠席のせいで、日々の作業で手一杯になってしまい、新規の作業を受ける余裕がないとの声がある。
・　今年度は、福祉課と情報交換を行い、福祉課から作業所が受注できそうな市役所の仕事をリスト化してもらった。今回は事業所から手は挙がらなかったが、利用者からは市役所にどんな作業があるのか理解できたとの声があり、また、福祉課からは利用者にどのような作業が需要があって、どのような作業が難しいか理解できたとの声をいただいたので、今後に繋がる取組であったと思う。

［上越ワーキングネットワーク　千葉拓未共同販売部会副部会長］

・　共同販売部会は、販売会の主催や地域イベントの参加に関することを行っており、地域の皆さんに商品を手にとってもらうための企画を行う窓口を担っている。
・　今年度は、イベントに約 10 件参加・主催した。
・　新型コロナウイルス感染症のせいで販売の頻度や客足が減っている。対策をどこまでやるべきなのか、あまりやり過ぎると客足が減ってしまうので、線引きが今後の課題である。
・　利用者が地域の方とふれあうことを楽しみにしているので、今後も積極的にイベントに参加していきたい。

［上越ワーキングネットワーク　八木絢子農業部会副部会長］

・　農業部会は、農作業の受託を通して障害のある方の活動を広げ、社会参加と工賃向上を目的に活動している。農福連携として、農家からの作業依頼があった際は、部会内の担当エリアごとに受託に向けての打ち合わせを行っている。
・　上越ワーキングネットワークは、平成 27 年から 2 年間のモデル期間も含めて農福連携に取り組んでおり、6～7 施設が農作業を受託している。
・　他の作業との兼ね合いや作業の納期、作業場所までの距離が遠いこと、作業に参加する利用者の高齢化、職員の技術面の不足などから、すべての依頼に積極的に手を挙げられない。

［上越ワーキングネットワーク　渡部和平農業部会委員］

・　農福連携の受注件数は年々増えており、新型コロナウイルス感染症の影響はない。
・　今年度の工賃は、現時点で例年より減少している。福祉事業所の高齢化に伴い、これまで受託していた作業ができなくなったことや農家の機械化が進んで人手が不要になったことが原因となっている。

［上越ワーキングネットワーク　岡田洋祐広報部会副部会長］

・　広報部会は、FM-J「ひるどきラジオぴっとイン！」の出演、広報誌「上越ワーキングネットワークだより」の発行を担当している。
・　FM-J「ひるどきラジオぴっとイン！」が今年度をもって終了してしまうため、新しい発信方法を模索していかなくてはならない。

［平良木哲也委員］

・　他の市町村でもこのような活動はあるのか。また、それらとの連携はどうか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　上越ワーキングネットワークが発足するときに、新潟市の例を参考にした。当初、上越ワーキングネットワークは妙高市の事業所を含めて活動していたが、6年ほど前に独立して妙高市単独で立ち上がった。昨年は、燕市に助言した。事業所間の情報交換はしていないが、高福連携の作業を各市で分担することはある。今後、情報交換をしていきたい。

［大島洋一委員］

・　事務局について、社会福祉協議会と行政とはどのような協議を行い、進捗はどうか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　事務局の人件費は、市から社会福祉協議会に補助金を受けていた。福祉課に相談に行き、来年度以降も変わらぬ支援の協力をお願いしたところ、来年度も今までどおりの補助を受けられそうな感触を得た。

・　来年度の事務局は、さくら園で受けることが決まっている。事務局機能が軌道に乗るまでは、社会福祉協議会のサポートを受ける。

［中土井かおる委員］

・　利用者が増えていると感じる。工賃の向上が大切だが、平均工賃は上昇しているのか。また、コロナ禍で工賃は減ったか。

［上越ワーキングネットワーク　千葉拓未共同販売部会副部会長］

・　コロナ禍で販路は激減したが、全体の工賃はほとんど変わりない。地域の企業等にチラシを配布して販路拡大を目指すなど、努力をして工賃を維持している。

［上越ワーキングネットワーク　事務局　佐藤貴規氏］

・　上越ワーキングネットワーク全体としては、受注件数は年々増加しており、平均工賃は1,000円ほど増えている。

［小山ようこ委員］

・　広報活動の今後について、どのように考えているのか。

［上越ワーキングネットワーク　岡田洋祐広報部会副部会長］

・　FM-J の別の番組に出演できるか相談している。また、スマホで動画撮影をして、その動画を流してもらうことも検討している。

・　広報誌は、年間1,200部発行しているが、事業所や福祉交流プラザ等に配置する分しかなく、市内全域に周知できていないと感じる。

［小山ようこ委員］

・　SNSを活用してはどうか。

［上越ワーキングネットワーク　横山将典副代表］

・　上越市まち･ひと･しごと創生推進協議会を通じて、市の公式 Facebook や Instagram にイベントのお知らせを掲載している。

［小山ようこ委員］

・　イベントのお知らせだけではなく、上越ワーキングネットワークの活動を SNS で周知すべきではないか。SNS を活用すると幅広い年代に見てもらえる。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　利用者の中には、個人の写真が掲載されるのを好まない人もいる。任意団体であるため、アカウントの管理に課題もある。

［上越ワーキングネットワーク　清水隆吉共同受注部会部会長］

・　商工会議所や市役所、JA に営業活動に行った。また、商工会議所の広告で周知してもらった。

［鈴木めぐみ委員］

・　事業所内の作業で手一杯で新規の作業が受けられないとのことだが、せっかく依頼があっても受託できないのはもったいない。今後、依頼は増加すると思うが、解決策はどう考えているのか。

［上越ワーキングネットワーク　清水隆吉共同受注部会部会長］

・　できない作業もあってマッチングが大変である。間口を広げてマッチングの機会をつくる努力はしている。

［上越ワーキングネットワーク　葉吹洋也副代表］

・　外の活動はできる人とできない人がおり、また、職員の引率など調整が難しい。

［中土井かおる委員］

・　企業から上越ワーキングネットワークに仕事を依頼し、上越ワーキングネットワークが各事業所に仕事を割り振る仕組みなのか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　企業から事務局である社会福祉協議会に依頼し、マッチングを図る。

［杉田勝典委員長］

・　利用者の高齢化で人材の確保が難しいとのことだが、利用者をどう確保していこうと考えているのか。また、利用者の平均年齢はどうか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　企業への就職を最終目標にしている。

・　下は 20 代、上は 70 代、平均 40 代である。

［石田裕一議長］

・　事業所の受入れの定員もあると思うが、定員いっぱいに受入れできないのか。事業継承はどうしていくのか。また、事業所の仕事と上越ワーキングネットワークの仕事を両立できないのか。

［上越ワーキングネットワーク　葉吹洋也副代表］

・　事務局と相談を重ねて何とかなりそうではある。コロナ禍もあって両立は大変。

［杉田勝典委員長］

・　利用者は減っているのか。

［上越ワーキングネットワーク　葉吹洋也副代表］

・　一般就労を目指しているので、利用者が減るのはやむを得ない。

［ストラットン恵美子副委員長］

・　市への要望はあるか。

［石田裕一議長］

・　市からの支援は農福連携の補助金だけなのか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　福祉側の受注件数が上がっているので、来年度から農福連携の補助金を農業者への支援に切り替えたいとの話をもらっている。

［石田裕一議長］

・　それで納得しているのか。

［上越ワーキングネットワーク　吉田健一代表］

・　農福連携に関して、新潟市は独自の補助金があり、受託に対して加算があると聞いたことがある。受注した利用者に還元できるよう市に補助してもらいたい。

・　令和 3 年の法改正により施設外就労加算が廃止された。新型コロナウイルス感染拡大とも重なり、施設外就労がストップしてしまった。施設外就労は、利用者の経験値が上がり、選択肢が広がる活動であるため、市から独自に支援してもらいたい。

［上越ワーキングネットワーク　八木絢子農業部会副部会長］

・　事業所から作業場所までの距離が遠い場合もあるが、工賃に交通費は含まれていない。農家に交通費をお願いするのは難しく、燃料費も高騰しているので、市から補助してもらいたい。

・　作業に利用する手袋やエプロンなどの物品は、利用者が用意している場合があり、それについても市から補助してもらいたい。

・　障害をもつ方が外に出て知ってもらうことは大切であると考えるため、施設外就労加算が廃止された今、市には地域に出やすい体制を整えてもらうために、補助をお願いしたい。

５　閉会の挨拶

厚生常任委員会　委員長　杉田　勝典